

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：26016

学校名：澄川西小学校

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果

分析

| | | |
|-------------------------------|---|--|
| <p>体力・運動能力 <男子></p> | <p>○全国平均と同程度もしくは上回った種目 ・握力 (kg) ・上体起こし (回) 反復横跳び (回) ・20m シャトルラン (回) ・立ち幅跳び (cm) ・ソフトボール投げ (m)</p> <p>●全国平均より下回った種目 ・長座体前屈 (cm) ・50m 走 (秒)</p> | <p>○柔軟性や瞬発力に課題がある。指導計画や学習展開の工夫、授業以外で子どもの運動機会を創出する取り組みなどを通して育む必要がある。</p> |
| <p>体力・運動能力 <女子></p> | <p>○全国平均と同程度もしくは上回った種目 ・握力 (kg) ・反復横跳び (回) ・20m シャトルラン (回) ・立ち幅跳び (cm) ・ソフトボール投げ (m) ・上体起こし (回)</p> <p>●全国より下回った種目 ・長座体前屈 (cm) ・50m 走 (秒)</p> | <p>○柔軟性や瞬発力に課題がある。指導計画や学習展開の工夫、授業以外で子どもの運動機会を創出する取り組みなどを通して育む必要がある。</p> |
| <p>運動・スポーツへの意識、 運動習慣</p> | <p>○「運動やスポーツをすることは好き・やや好き」と回答した割合 <u>男子:94.4%</u> <u>女子:89.4%</u> ○「運動やスポーツをすることへの興味・関心がある・ややある」と回答した割合 <u>男子:89.4%</u> <u>女子:85%</u></p> <p>●平日に、学習以外での、一日にテレビやDVD、ゲーム機、スマホ、PCの画面を見る時間 <u>男子:3時間以上が77.9%</u> <u>女子:3時間以上が70%</u> いずれも全国平均より10%以上多い</p> | <p>○子ども達の運動量が低い要因は、SNSやICT機器の普及、あそび場の不足にあると考えられる。解決策として、放課後の学校グラウンド開放や家庭でのスマホを含めたICT機器の使用指導が重要</p> |

三つの取組

① 体育・保健体育等の授業の充実

② 授業以外で子どもの運動機会を創出する取組

③ 子どもが自ら健康の保持増進を図る取組

具体的な取組

○課題探究的な学習における健やかな体づくりの推進
【学びを活かす子ども】
・単元の初めに学習の見通し（目標となる姿）を共有し、自分の課題をもち自分を調整しながら、目指す動きに近付ける授業を展開する。
○一人一台端末を活用した学習の改善
・Chromebookを積極的に活用し、撮影機能を使って動きを確認・共有し、他者から助言を得るようにする。
○体育科の少人数指導
・水泳学習、跳び箱などの器具運動、スキー学習を中心に、安心して運動に取り組むことができるような人員配置を行う。

○「縄跳び運動」の促進
・例年行っていた「なわとびチャレンジ」を今年度も継続し行う。体育発表会でのブロック種目に、縄跳びの表現運動を設定することにより、休み時間での縄跳び運動を促進する。
○運動の日常化を図る環境づくり
・校内のスペースを最大限活用し、体力テスト用具やマルチジャンパー、フォームロケット、的など様々な【遊び場】用意する。さらに、竹馬や一輪車を整備し、休み時間に楽しみながら友達と運動できるようにする。
○委員会活動による取組
・「体力委員会」「イベント委員会」などの委員会を中心に、体を動かす計画を立てる。子どものアイデアを生かし、異学年で触れ合いながら楽しんで運動する機会をつくることができるようにする。

○「いのちの学習」のカリキュラム化
・全学年、学級活動の時間に行う。発達段階に則した内容を作成し、自分だけではなく、誰もが安心して生活するために必要な素地を育む。
○外部講師による健康教育の推進
・6月：歯科衛生士による歯磨き指導
・6月：助産師による心と体の講和
・7月：ヤクルトによるおなか元気教室
○食に関する指導の全体計画の作成
食事の重要性等の理解と、マナーや食事を通じた人間関係形成能力の育成を図る。
○保健指導の充実
養護教諭が各学級での保健指導に当たり、より実践的な健康教育を推進する。

家庭・地域との連携・協働

○新体力テストの結果を活用して、本校の子どもたちの傾向や特質を把握し、課題を明確にする。
○児童・保護者アンケート・教職員自己評価を活用し、運動や健康に関する項目を検証する。

